



吉原美智恵議員

# 介護サービスの今後は

## 町長 施設の充実をはかる

**問** 介護保険制度は、自治体の自己決定、自己責任において運営できる自治事務である。本町は、急速な高齢化と核家族化、高齢者のみの世帯の増加等、年々深刻さを増している。高齢者の介護を支え合う仕組みとして、この制度が導入されたが、現状の課題は。また、高齢者が地域で自分らしく生きられ、在宅介護になっても暮らし続けられる仕組みづくりとして「保健・医療・福祉連携体制づくり事業」が検討されてきているが、その進み具合は。

**答** 森田町長

この制度の現状は、高齢化と、施設制度の充実により、介護サービス利用者と、給付費が年々増加している。平成18年度の法改正により、介護予防をより重視したシステムの転換や、地域ケア体制の整備等の施策を講じることとなった。現状では、増加する重度要介護者の抑制や、介護サービスの適正化、予防事業の推進が課題である。「保健・医療・福祉連携体制づくり事業」は、協議会で具体的な検討を進めていく。



すこやかな毎日を

## 小・中連携を進めては

## 手立てを考えたい

教員長

**問**

町報に「全国学力・学習状況調査」の結果がのっていた。その中で、生活習慣や学習状況調査において、小・中ともに共通点が見られた。家庭生活を基本としながらも、系統的かつ継続的な指導を行うために、小・中連携を進めていってはどうか。

また、愛媛県松山市の山間地の学校では、小・中一貫教育に挑戦



子どもに明るい未来を

しているところがある。この学校では、子どもたちの入学数が激減した時点で小・中の連携の取り組みを始め、魅力ある学校づくりをめざしている。今年度より「小・中連携アドバイザー」として、校長経験者に、指導や助言をいただいている。

現在では校区外の生徒を70%も集め、生き生きとした学校運営が進められている。検討してはどうか。その上で、どのような手立てが必要であるのか協議をしながら、取り組みを進めたい。

また、小・中一貫校は、本町でも視野に入れていくが、現状のままで、魅力ある学校づくりをめざしていきたいと考えている。

**答** 伊澤教育委員長

小・中の連携は重要であり、これまでも取り組みを進めてきたが、